

平成28年度 西伊豆町教育委員会第5回定例会

- 1 開催日 平成28年9月26日(月) 15:00~15:45
- 2 場所 西伊豆町福祉センター2F 大会議室
- 3 出席者 藤井定男委員長・渡邊美成委員(職務代理)・山本久美子委員・
藤井繭子委員・宮崎文秀委員(教育長) [事務局 高木光一・
長友信也]
- 欠席者 なし
- 4 傍聴者 なし

委員長：園訪問お疲れ様でした。それでは、引き続きになりますが定例会を開催したいと思います。本日の出席委員は5名です。過半数に達していますので、ただ今から平成28年度第5回の定例会を開催いたします。日程1の会議の日程ですが、本日26日、一日限りとしたいと思います。よろしいでしょうか。

(委員：全員異議なし)

委員長：日程2の「議事録の承認について」ですが、平成28年7月26日開催の第4回定例会の議事録については、私と藤井繭子委員が確認し署名いたしましたので、ご承認いただいてもよろしいでしょうか。

(委員：全員異議なし)

委員長：日程3の議事録署名委員ですが、山本久美子委員をお願いします。

(山本委員：了解)

委員長：次に議案ですが、日程4の第13号議案の「平成28年度全国学力・学習状況調査の結果公表について」を議題とします。なお、第13号議案は、個人の特定に繋がる情報もありますので、秘密会として審議したいと思います。よろしいでしょうか。

(委員：全員異議なし)

委員長：それでは、全員異議なしと認めますので、本日の日程4の第13号議案は秘密会といたします。それでは事務局から説明をお願いします。

(秘密会により一部非公開)

高木：それでは、第13号議案をご覧ください。平成28年度全国学力・学習状況調査は、今年の4月19日に行われましたが、その結果公表について御協議をお願いしたいと思います。詳細につきましては、長友指導主事より説明をさせていただきます。よろしくをお願いします。

長友：A3裏表で印刷された西伊豆町教育だよりの表をご覧ください。この学力調査の目的は、学校ごとの平均を比べて順位を出すという事ではなく、教育施策の成果と課題を検証して改善を図ることや、教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることが大きな目的です。順位を出して優劣をつけるものではありません。これが4月19日に小学校6年生と中学校3年生を

対象に調査を行いました。内容は国語算数と数学の2教科と質問集です。昨年は理科があったのですが、理科は3年に一回ということなので、今年度はありません。(非公開) このデータから西伊豆町の子ども達が良い所、頑張りたいところは次のようになります。右をご覧ください。小学校の特に良いところは、国語の漢字を正しく書くことや読むこと。また特に頑張りたいところは、算数の数量関係に関する活用の問題に課題があると思われます。中学校では特に良いところは数学。非常に出来ておりまして、特に文字式の計算や図形の性質をしっかりと理解しているところが特に良いところです。また特に頑張りたいところでは国語となっており、目的に応じて必要な情報を読み取ることや書くことなども課題にあげられております。裏をご覧ください。昨年同様にグラフで表しました。こちらを参考にしますと具体的に課題が見えてきます。全国的に見ますと、西伊豆町の平均正答率は全国や県と同じように見えます。小学校の方を見てみますと、算数Bのすべての領域で西伊豆町の四角形が内側に来ているのがわかります。この数学Bというのが活用問題なのですが、ここに課題が見られるという事がわかります。同様に中学校では、国語Aの書くことのところの方が下がっているのが見えます。ここに課題が見られると思います。静岡県も分析を行っており、静岡県の学力向上会議に出席して、それを受けて私が研修主任を中心に学校指導して授業改善に取り組んでもらうという事でポイントを上げました。こちらのポイントというのはどちらかと言いますと先生方へのメッセージになります。本当はこの6項目に詳しく記載したいのですが、この紙面には収まらないので、各学校で先生方にアドバイスしていきたいと思えます。ではまた表に戻ってください。今度は表の質問調査についてです。朝食を毎日食べていますか、自分には良いところがあると思えますかというところになります。このプリントには7項目しかないのですが、本当は全部で85項目あります。この85項目から7項目へ絞って掲載しております。二重丸、丸、三角は先ほどと同じように±3%で区切っております。そうすると朝食は良いのですが、中学校の三角が見えてくるところがどうなのかという所なので、そこを課題にしなながら二重丸が特に目立つのが地域の行事・ボランティアに参加していますかというのが全国に比べると大きく上回っております。そういうことから西伊豆町の子ども達は地域の行事に積極的に参加するなど、非常にふるさとを大切にしていると言えます。また多くの子ども達は学校が楽しい、友達と協力して物事をやりとげる達成感を味わっている、とにかく学校生活が充実している児童の割合が多いです。だから家庭ではこれらの姿勢を大切にしながら、家庭学習の内容や質に目を向け、スマホやゲームなどの家庭のルールを作るとい

う事も大事です。そういうようにして家庭で学習習慣を身に着けるような関わりを心掛けていきたいと思いますというメッセージを3番の保護者へという

ところへ載せております。私からはこのことに関しては以上となります。

委員長：何か今の説明について質問はありますか。

渡 邊：指導改善のポイントというのはここに6項目挙げてありますけども、分らなかった点を改善するという事はとても大きなことで、うまくいっている点を確認することもとても大きなことなのですけども、この中学校の二重丸のところがありますけども、うまくいっているところなのですか。そこに明確に箇条書きにできる点があれば。それは大事な事なのではないかと思う。何がその結果に結びついたのかということも反省点と同様に大事な事ではないのか。

長 友：ぜひそれも学校に確認していきたいと思います。

渡 邊：何かあからさまな話は聞かないのですか。

長 友：あからさまというよりも、例えば西伊豆中学校に授業のことで支援に行くという事とは別に、用事で行くときに西伊豆中学校に入ると玄関前のラウンジで勉強をやっている生徒を見かけます。後は数学の授業を得意な子とそうでない子の2クラスに分けて学力に応じた指導を行っております。数学に関しては非常に丁寧です。

渡 邊：それは数年前の仁科小学校の校長先生がとても熱心で、その方も算数ではなかったですか。国語でしたか。

教育長：その時小学校6年生の子がちょうど今の中学校3年です。当時国語が全国最下位でした。でも今は頑張っている成績を取りましてV字回復しました。

渡 邊：小学校と中学校で関係があるのですね。小学校でやってきたことが、中学校で結果が出たという事ですね。成績を貼り出すようなものは算数ではなかったのですか。

高 木：百点大作戦ですね。

教育長：そうですね。漢字と算数ドリルの結果ですね。

渡 邊：それでという訳ではないと思いますけど、小学校で頑張った結果という事かもしれませんね。

教育長：間違えると次のステップに進めないというやつですね。繰り返しやっていくことになるので、ステップアップにつながってきますので、そういう面では鍛えられていると思います。

長 友：あと良いと思うのは、小学校で保護者のボランティアを募って、漢字や計算の指導をしてもらっております。賀茂中学校でも数学の教師が一人ではなく、チームティーチングなので複数の教師で授業を見えています。数学は差が出やすいので、その辺りは手厚くしているという事はとても印象に残っております。今年度の子たちは数学ができるという色なのかもしれません。

渡 邊：絶対数も少ないですからね。果たしてこれがいつまで続くのか。またこれが高校生となると、理数科や文系と別れる中で数学ができるというのは大きなことですね。下田高校なども理数科に一つのステータスがありますね。

反省点というよりも、うまくいっている点を褒めるところから。

藤 井：これは西伊豆町の中でもばらつきはあると思います。平均するとこの数字で、学校ごとではまた違ってくるとは思います。

長 友：そうですね。もちろん町内でランク付けする必要は無いので、あえてそのようなデータはつけておりません。一概に平均というのが西伊豆町の平均に適切かと言われると。

渡 邊：去年はどうだったのですかね。こんなに二重丸があったのですか。

教育長：数学は何もなかったです。

長 友：むしろ数学は悪かったと思います。是非数学の先生に強みを生かして指導にあたって欲しいと思うというメッセージを届けたいと思います。

山 本：気になったのですが、2番の質問調査結果について将来の目標を持っていますかという所が中学生は三角となっています。田舎だと色々な職業に就いている方が少ないので、子どもから見える部分は固まってしまう。以前、西伊豆中学では、田子中学出身で色々な職業で活躍されている方、スチュワーデスさんとか、日本大使館のコックになりその後フランスで修業し、英語もフランス語も出来るようになり三菱地所の重役にまでなった方などが子供達の前で話をしてくれて、未だに子供達の記憶に残っている。私の子供が田子中学の時に同級生が一流企業に入りたいと言っていたが、先生は「頑張れ」ぐらいしかアドバイス出来なかったが、やはりその一流企業に就職するには、どこの大学に入ってどのように勉強したらいいか、目標を中学生くらいで出来た子はとても強いと思います。だからそういう職業に夢を持てる何かが出来たらいいと思います。

長 友：ありがとうございます。今度10月4日あたりに東部地区でキャリア教育研修会というものがあって、各地区のキャリア教育の担当が集まって研修会を行います。それはまさに将来の希望を持って、必ずしも小学校、中学校で何の職業に就くというものを決めなくてもいいですね。自分を見つめて、自分にはどんなことがあっているのか、自分はどんなことに興味があるのかと考えると、職業ができるかもしれないと漠然な憧れでもいいのでそれを持つことはとても大事なことだと思います。今すぐくはやっている職場体験は、西伊豆と松崎でとても受け入れ態勢がしっかりしております。あるいは賀茂中学校でも太鼓で活躍されている方を招いて、実践と一緒に夢を語るというものがあり、そういった形でキャリア教育というキーワードで力を入れております。そして私は2年前までは中学校の教員で、高校入試の指導もやっておりました。その中でも面接の練習をしておりました。その時に質問で将来の夢はなんですかと聞くのですが、まだ決まっていないと語れません。また、今は決まっていないが高校へ入って考えていきたいという生徒もいました。そういうことではなくて今の自分を見つめてどういうものがあっているかというのを整理するようにアドバイスするのですけども、指摘を受けたように夢や目標というのが。

渡 邊：地域の殻を破るという意味だと思います。今山本さんがおっしゃったのは、地域の中では、この地域の行事に参加しておりますかは二重丸です。よく話が出るのですが、地域とのふれあいというのはとても良いです。ただ、もっと突拍子もない石をぶつけてみたい。もっと世の中は広くて君たちは総理大臣もなれるし宇宙にも行けるというそのサイズから。別にこの土地で生きていくことが悪という事でも、海外に行くことが成功という事ではないのですが、やはり世界は広いという事を伝えてあげたい。

山 本：自分が必要となった勉強は本当に前向きにできる。こういうものになりた
いからこういう勉強をしたいというのとただ成績を上げたいとは違う。

長 友：繋がってきますね。目標を持つことと実行と。

藤 井：将来の職業のところの三角で先ほど話が合ったのですが、土肥は中学校
だったか小学校だったか土肥出身の方で身近な職業だったり、土肥には
ない職業だったり、色々な職業に就かれている方を招いてお話をすると
いう事をやっています。子ども達には好評のようです。子ども達はそれを楽
しみにしているという話を聞きます。西伊豆町でも普段見ない仕事、おし
ゃれな職業でも身近に無い職業の方でも、身近な職業の方でも話を聞く機
会というのが必要だと思います。職場体験は町内だと、すごく身近な所で
可もなく不可もなくではないのですが、話を聞く体験だけでも実現でき
るといいと思いました。

長 友：また学校に投げかけて見ます。

教育長：職場体験は、この辺だとセブンイレブンとか観光ホテルとか役場とか本当
に地元での3日間ですが、ただ沼津でも同じようなものですね。もっとグ
ローバルな大きな工場に見学に行くとか、もっと大きなことを見せたい。
この間台湾へ行って感じたことは、日本は殻の中で小っちゃくなっている。
台湾の子どもは卒業したら世界の大学へ行かせたいという親の意向が
あるのに、こちらは出来るだけ地元に残そうとか、中を中心にしたいとか
大事な所はあるのですが、もう方向性が中を見ているか外を見ているかで、
子ども達の感覚が全然違います。台湾は特に学歴社会なので親も大学へ行
かせるという意向が強いです。ホームステイも台湾は是非来てくれという
が、こちらは出来たら来て欲しくないというように違いがある。澎湖県の
教育長と話をしたとき、一番力を入れていることはなんですかと質問しま
したら、どれだけ澎湖県から台湾の本島の優秀な高校へ送り出すかという
話でした。また知事にも話をしたら、いかに英語力を高めるかという話で
した。台湾は内政が不安なので世界を相手にしていかなければならないと
いうものもある。ただ、ふるさとだけではいけないと思う。

山 本：やはり外を色々見て体験してきて、ふるさとに帰ってきたらもっとふるさ
とが良くなる。

教育長：中だけを見るだけでなく、中も外も見た上で中の良さ改めて知り、ここで
何ができるかを考えていった方がいい。

山 本：人間は必要になると、嫌いな物でも何でもできるようになる。「必要」は人を伸ばすと思う。

長 友：将来の夢という点でまた新たな取り組みが見えました。

渡 邊：田舎だからということではないかもしれませんが。学生だけではなく、現状の日本が抱えている大きな夢というものでは、モチベーションが低いと感じます。裕福さもあるかもしれませんが。巨人、大鵬、卵焼きの時代と比べると目指すものはないのかなと思う。最近車もいないという若者も増えたと聞くが。

長 友：項目は昨年度をベースに少し変えてあります。例えば自分にはよいところがというところを、自己肯定感を高めるということをよく聞くのでこの項目を入れました。これを去年は最後まで物事をやり遂げて嬉しかったことはという項目でした。

渡 邊：自己肯定感とは何か壁を打破した時に生まれるのではないかと思います。これを見ますと先生方の褒め方が足りないというように見えてしまいます。何か問題があって、それを克服したからこそ自己肯定感が生まれるわけなので、何もないのに自己肯定感が丸だというのは空気が合わないと思う。

教育長：この自己肯定感は何処で判断しているか分かりません。どこかにありますか。

長 友：自分にはいい所があると思いますかという質問があります。

渡 邊：全国的によくこの自己肯定感という言葉アンケートで見ます。

長 友：日本は外国に比べると低いと言われております。

渡 邊：それはすごくストイックだと思う。

長 友：これが問題だというとよく問題視されるのですが、国民性といいますか。

教育長：遠慮がちというか。

藤 井：志というか、外国の方がここまででいいかと思うところを日本人はまだ上があるというところがある。

教育長：この項目だけ答えて自己肯定感があるというのもどうか。80項目答えている話ですからね。

藤 井：小学生では、例えば俺は足が速いので良いところがあるぐらいだと思う。自己肯定感に読み取っていくのは難しいのではないか。

渡 邊：ただ全体的にはこれでいいと思います。あまりシビアにしまうと、全体的にシビアになってしまいます。実際来年になったら変わってしまう可能性が多々あって、その中でこちらは良くも悪くもざっくりとしています。

(非公開)

藤 井：これは保護者に向けてのものですよね。

教育長：町の広報誌に挟んで配布いたします。

高 木：この内容で回覧をしてよろしいかという確認です。

山 本：本人には結果がいきますか。県に比べて低いとか高いとかは。

長 友：各学校で分析して個人に伝えますが、県と比較してはやってないと思います。

藤 井：個人に来るのもこのようなグラフになっていて平均よりも上とか下とかは分かるようになっていたと思います。

教育長：各学校にお任せして分析しているので、それぞれの学校、学年で分析して作っている。それを保護者面談の時に使っていると思う。また、結果を全生徒児童に配ったり、学年だけ配ったりと対応は学校ごとで違ってきます。

藤 井：これは、ぼんやりと見ていただく程度でいいと思います。

教育長：何となく全国平均ぐらいというのが見えてくればいいかと、これで一喜一憂して西伊豆町の教育が良いとか悪いとかを判断されても困るし、前年度と比較されても難しいことだと思います。

藤 井：公表の出し方とかは問題ないと思います。

渡 邊：プリントの出し方としてはこれで良いと思います。

長 友：よく新聞で「学テ」とありますが、これはあくまでも調査であってテストではないというところに拘っていただきたいと思います。

委員長：それでは他に意見がないようですので、第13号議案の「平成28年度全国学力・学習状況調査の結果の公表」について賛成の方の挙手をお願いします。

(委員：全員挙手)

委員長：挙手全員ですので、第13号議案については可決されました。秘密会の議案が終了しましたので秘密会を解きます。

(秘密会終了)

委員長：以上で本日の議事案件は終了いたしました。それでは平成28年度第5回の定例会を終了します。本日は朝から本当に皆様お疲れ様でした。